

内令第九號

當分ノ間左ノ通看護手教員ヲ増置バ

明治四十年二月一日

海軍大臣 齋藤實

横須賀海軍病院
吳 海軍病院
佐世保海軍病院
舞鶴海軍病院

二 三 二
八 八 入

六
海軍

0231

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十一號

海軍艦船條例第三十五條ノニ第一項ニ依リ驅逐艦松風ニ別表ノ乗員ヲ置ク

明治四十年二月九日

海軍大臣齊藤實

0232
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

(別表)

松風乗員表

驅逐艦長 少佐、大尉

機関尉官

兵曹長上兵等

機關兵曹長上等兵等機

備考	計	將校同相當官	兵曹長同相當官、准士官	二八人	一	一	一	一	二等水兵	二等機關兵	二等主尉	下士	卒	二十五人	五人	十	十四	一	二十	二等兵曹	二等機關兵曹	二	二
一 機関尉官ハ機関長兼分隊長ノ職務ヲ行フ																							
二 兵曹長上兵等ハ掌砲長兼掌水雷長ノ職ニ充ツ																							

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十一號

海軍定員令中左ノ通改正セラル

明治四十年二月九日

海軍大臣 東 顯 實

別表海軍機関學校定員表中二等兵曹ノ下「一一」ヲ「一一」ニ、二等機關兵曹ノ下「三」ヲ「五」ニ、一等水兵二等水兵及一等機關兵ノ下「六」ヲ各「八」ニ、三等機關兵ノ下「七」ヲ「十」ニ。計
編「十七人」ヲ「二十人」ニ、「三十人」ヲ「三十九人」ニ改ム

十二
海軍

0234

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十二號

明治三十九年内令第一二百七十一號別表三笠特別定員表中二等機關兵會下「十」ヲ「十六」ニ、「一等木工 二」ヲ「一等木工 二」ニ、一等機關兵ノ下「十八」ヲ「三十三」ニ、二等機關兵ノ下「三十六」ヲ「六十一」ニ、一等主厨ノ下「三」ヲ「四」ニ、計ノ欄内「七十一人」ヲ「七十七人」ニ、「一百八十一人」ヲ「三百」十五人」ニ改ム

明治四十年二月十四日

海軍大臣齊藤實

十三
海軍

0235

内令第十二號

右第六驅逐隊ニ編入セラル

右第七驅逐隊ニ編入セラル

吳鎮守府在籍
驅逐艦 初 春

驅逐艦 卯 月
水無月

第六驅逐隊 初 春

驅逐艦 卯 月
水無月

第七驅逐隊 初 春

右第一豫備驅逐艦ヲ定メ全定員ヲ置ク

明治四十年二月十五日

海軍大臣 斎藤實

十四

海軍

0236

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十四號

右第一艦隊ニ附屬セシメラル

右役務ヲ解カル

右警備驅逐艦ト定メラル

第一
十五
驅
驅
逐
逐
艦
艦
隊
隊

第二
四
驅
驅
逐
逐
艦
艦
隊
隊

第三
三
驅
驅
逐
逐
艦
艦
隊
隊

第三
驅逐隊

警備驅逐艦春

月

驅逐艦皋

月

十五
海軍

右第一豫備驅逐艦ト定メ全定員ヲ置ク

明治四十年二月十五日

海軍大臣齊藤實

0237

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十五號

右第一豫備艦ヲ定メ全定員ヲ置ク

明治四十年二月十五日

横須賀鎮守府第一豫備艦
軍艦滿州

海軍大臣齊藤實

十六
海軍

0238

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十六號

塔月望樓ノ無線電信機ハ修理後成本月十一日ヨリ通信ヲ開始セリ

明治四十年二月十五日

海軍大臣 齋藤實

0239

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第十七號

艦砲射撃規則左ノ通定ム

明治四十年二月十八日

海軍大臣 竹 藤 實

艦砲射撃規則

總 詞

第一條 本則ハ軍艦、驅逐艦、水雷艇等ニ於テ訓練ノ爲施行スル艦砲射撃ニ關スル事項ヲ規定ス

艇砲射撃モ亦本則ニ依リ施行スルモノトス

第二條 艦砲トハ軍艦、驅逐艦、水雷艇ニ裝備シタル砲ヲ謂フ
艇砲トハ平常ノ裝備如何ニ關セス艦載水雷艇、小蒸氣船若ハ端舟ニ裝載シテ發射スル砲ヲ謂フ

第三條 艦砲射撃ノ主ナル目的左ノ如シ

十八 海軍

- 一 將校ヲシテ砲火ノ指揮ニ熟セシメ且射擊術ノ智識ヲ增進セシムルコト
- 二 將校ヲシテ彈着觀測ニ熟セシムルコト
- 三 砲員ヲシテ射擊ニ熟セシムルコド
- 四 砲火指揮ニ關スル通信法ニ熟セシムルコト
- 五 發砲ノ際ニ於ケル砲煩、砲架及機動裝置等ノ状態ヲ知悉セシムルコト

第四條 艦艇長ハ射擊ヲ爲スニ先チ之ニ關係アル將校ヲ集メテ射擊施行ノ順序方法等必要ナル事項ヲ訓示シ又射擊ヲ終リタル後ハ之ヲ講評スヘシ
船長ハ砲術長(砲術長ナキトキハ其ノ職務ヲ執ル將校以下歟)ヲシテ射擊ニ關シ更ニ詳細ナル教示ヲ爲サシムヘシ
砲臺長(若ハ之ニ相當スル將校以下歟)ハ射擊ノ前後ニ於テ艦長ノ訓示ニ基キ詳細其ノ部下ニ教示スヘシ
第五條 艦砲射撃ハ成ルヘク航路、漁場等ヲ避ケ産業ヲ妨クサル如ク施行スルヲ要シ且
彈丸ノ跳擊等ヲ爲スモ人畜其ノ他ニ危害ヲ及サル如ク射擊場所ヲ選定スルヲ要ス

第六條 艦砲射撃ヲ行ハントキハ艦長(驅逐艦水雷艇ニ在リテハ司令)ハ凡ソ一週間前ニ豫定日時、場所及危險ノ方面等ヲ當該地方廳ニ通知シ尙射撃地域ニ關係アル郡市役所、町村役場、憲兵屯所及警察署ニ通知スヘシ

驅逐艦水雷艇ハ司令ト全一地ニアラサルトキニ限り驅逐艦長水雷艇長前項ノ通知ヲ爲スモノトス

二艦艇以上相聯合シテ同時ニ同一地域ニテ射撃ヲ施行スルトキハ所在首席將校ハ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第七條 艦砲射撃中ハ射撃ヲ爲ス艦艇其ノ他海陸ヲ問ハス必要ト認ムル位置ニ最見ニ易キ様赤旗ヲ掲揚シテ危險ヲ表示シ且射撃地ノ狀況ニ應シテ哨艇若ハ哨兵ヲ配置スル等保安上適當ノ處置ヲ施スヘシ

第八條 艦砲射撃ヲ開始セントスルニ當リ要スレハ先ツ空砲ヲ發シ近傍ノ船舶及人民ニ注意ヲ與フヘシ

第九條 艦砲射撃ヲ施行セントスルトキハ艦長(驅逐艦水雷艇ニ在リテハ司令)ハ豫メ所

十九 海軍

屬長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ其ノ手續ヲ爲ス猶豫ナキトキハ許可ヲ受ケヌシテ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ成ルヘク速ニ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

第十條 本則ニ規定スル射撃ハ毎年十一月一日以後ニ於テ始メ翌年十一月末日迄ニ終ルヘシ

第十一條 本則ニ依リテ發射スヘキ彈藥ノ種類及數量ハ毎年十一月之ヲ告達ス但シ砲術練習所學生練習生ニ發射セシムル彈藥ノ種類及數量ハ別ニ定ムル所ニ依ル

射撃ノ種類

第十二條 艦砲射撃ヲ左ノ如ク區別ス

教練射撃

検定射撃

砲臺射撃

戰闘射撃

特種射撃

第十三條 教練射擊ハ主シテ射手ヲシテ實彈ノ照準發射ニ、砲手ヲシテ其ノ操作ニ熟セシメ又検定射擊ノ豫備訓練ニ供スルヲ目的トス

砲種(彈藥數量表ニ示ス)ニ依リ豫備射手ニモ本射擊ヲ施行セシム

第十四條 檢定射擊ハ主シテ各射手ノ技術ヲ検定スルヲ目的トス

第十五條 檢定射擊ニ於テ優等ナル成績ヲ得タル射手及砲手ニハ艦砲射擊褒賞令ニ依リ褒賞ス

第十六條 砲臺射擊ハ主シテ砲臺長及砲臺附將校等ヲシテ砲火ノ指揮ニ習熟セシメ又戰闘射擊ノ豫備訓練ニ供スルヲ目的トシ大口徑砲、中口徑砲及小口徑砲ニ區分シ砲臺毎ニ施行スルモノトス但シ水雷艇ニ在リテハ砲臺射擊ヲ行ハズ

第十七條 戰闘射擊ハ實戰ノ狀況ニ在リテ主シテ各級指揮官ヲシテ砲火指揮法ヲ練磨セシムルヲ目的トシ各艦艇ノ定ムル砲火指揮法ニ依テ實施スルモノトス

第十八條 戰闘射擊ニ於テ優等ナル成績ヲ得タル艦艇ニハ艦砲射擊褒賞令ニ依リ褒賞ス

第十九條 特種射擊ハ各艦艇ニ於テ夜間射擊、豫行戰闘射擊、遠距離射擊、動搖射擊、榴彈

二十

海軍

射擊、彈着觀測及試射其ノ他必要ト認ムル事項ヲ研究練磨セシムルヲ目的トシ規定彈數ノ範圍内ニ於テ艦艇長適宜ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルモノトス

機砲射擊ハ特種射擊ニ準シ施行セシム

第二十條 艦砲射擊ハ教練射擊、檢定射擊、砲臺射擊、戰闘射擊ノ順序ヲ以テ施行シ特種射擊ハ其ノ目的ニ應シ適宜ノ時期ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第二十一條 教練射擊、砲臺射擊、特種射擊ハ艦艇長之ヲ行ヒ檢定射擊、戰闘射擊ハ委員ヲ組織シ所屬長官之ヲ施行スルモノトス

第二十二條 所屬長官ハ檢定射擊又ハ戰闘射擊ヲ施行セントスルトキハ射擊艦艇及施行時日並場所等ヲ定メ二週間以前ニ海軍大臣ニ届出フヘシ

第二十三條 所屬長官ハ慶下艦艇ヲシテ他所屬艦艇ト連合シテ檢定射擊及戰闘射擊ヲ施行セシムヘシ戰闘射擊ヲ行フトキ亦同シ

所屬長官ハ慶下艦艇ヲシテ他所屬艦艇ト連合シテ檢定射擊及戰闘射擊ヲ施行セシムル

コトヲ得

第二十四條 海軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ射撃ヲ施行スヘキ艦艇及射撃ノ種類ヲ指定シ又ハ射撃ノ順序及時期ヲ定メテ施行セシムルコトアルヘシ

第二十五條 艦砲射撃ニ要スル標的、射距離及射撃艦速力等ハ別表ニ依ル

第二十六條 常装薬ヲ以テ射撃ヲ施行スルトキハ可成測壓器ヲ使用スヘシ減装薬ヲ以テ特種射撃ヲ施行スルトキ亦同シ

第二十七條 檢定射撃及戰闘射撃實施ニ關スル規程ハ毎年之ヲ告達ス

標的

第二十八條 標的ノ種類ヲ左ノ三種ニ區別ス

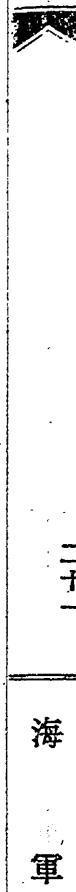
第一種標的

第二種標的

第三種標的

標的ノ制式ハ附圖ニ示ス

第二十九條 各種標的ヲ靜的トシテ用ユルトキハ之ヲ海上ニ碇置スルヲ例トス



第三十條 特種射撃ニ於テハ目的ニ應シ任意ニ標的ヲ選定スルコトヲ得

榴弾射撃ハ陸岸ノ巖石等其ノ炸裂ヲ驗シ得ヘキ物体ニ當キタル標的若ハ其ノ前面ニ樹テタル任意ノ標的ニ向テ施行スヘシ

監的及成績調査

第三十一條 監的將校ハ戰闘部署ニ於テ彈着觀測若ハ射撃指揮ノ任ニ當ル者ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

第三十二條 監的將校ハ射撃艦及標的ノ側方ニ在リテ正確ニ各彈着ヲ觀測シ射彈ノ狀況ヲ詳細ニ調査スヘシ但シ側方監的ハ成シ得ル限リ陸上ヨリ觀測スルモノトス

第三十三條 艦砲射撃ノ成績ハ標的ノ幕ニ命中シタル彈數ヲ以テ計算ノ基礎トス

検定及戰闘射撃委員

第三十四條 所屬長官ハ自ラ射撃委員長トナリ部下職員ニ委員及委員附ヲ命シ其業務ヲ

分掌セシムヘシ

所屬長官事故アルトキハ部下將校ニ委員長ヲ命スルコトヲ得

所屬長官ハ協議ノ上他所屬長官ノ部下職員ヲ委員ニ加フルコトヲ得
第三十五條 射撃委員及委員附ハ左ノ諸員ヨリ成ルモノトス

委員附 兵曹長、全相當官准士官下士卒

委員將校、全相當官

但シ必要ニ應シ委員ヲシテ技師、委員附トシテ技手職工ヲ加フルコトヲ得

報 告

第三十六條 報告ハ總テ進歩ノ程度ヲ検シ將來ノ改良ヲ圖ルニ必要ナルヲ以テ記事及意見等ハ詳細記入スルヲ要ス

第三十七條 教練射撃及砲臺射撃ヲ施行シタルトキハ砲臺長ハ部下ノ成績表(第一表)ヲ調製シ意見ヲ附シ砲術長ニ移スヘシ

第三十八條 特種射撃ニ於ケル各砲若ハ各砲臺毎ニ施行シタルモノハ砲臺長成績表ヲ調製シ意見ヲ附シ砲術長ニ移シ其ノ他ハ砲術長之ヲ調製スヘシ但シ成績表ハ第一表乃至第三表若ハ他ノ適當ナル表ヲ用ヒ其ノ目的方法及結果ヲ明記スヘシ

一一一 海 軍

第三十九條 砲術長ハ前諸條ノ成績表ニ依リ集合成績表(第五表第三表)ヲ調製シ意見ヲ附シ前記ノ諸表ト共ニ艦長ニ提出スヘシ

艦長ハ分隊長ヲシテ射撃ノ種類及成績等ヲ射手履歴ニ記入セシタル後砲術長ヲシテ該成績表ヲ保管セシムヘシ

第四十條 艦艇長ハ各種射撃ヲ施行シタル毎ニ射撃報告(調查シタル諸表及第六表)三通ヲ調製シ意見ヲ附シ二週間以内ニ一通ヲ海軍教育本部長、一通ヲ所屬長官(檢定射撃及戰闘射擊ニ在リテハ委員長)ニ提出シ一通ヲ砲術練習所長ニ送付スヘシ

第四十一條 所屬長官ハ麾下艦艇ノ各射撃ヲ結丁シタル毎ニ集合成績表(第七表)ヲ調製シ意見ヲ附シ一通ヲ海軍大臣ニ提出シ一通ヲ砲術練習所長ニ送付スヘシ但シ檢定射撃及戰闘射擊ニ於テ所屬長官委員長タラサルトキハ所屬長官ヲ經テ進達スルモノトス

第四十二條 艦艇長ハ前年十二月一日以後其ノ年十一月末日ニ至ル一年間ニ於テ全部若ハ一部ノ射撃ヲ施行セサルトキハ之ヲ理由ヲ具シテ十二月十五日迄ニ所屬長官ニ報告シ所屬長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

定員ヲ置カナル豫備艦艇ニ在リテハ豫備艦部長前項ノ報告ヲ爲スヘシ

艇砲射撃

第四十三條 艇砲射撃ハ艦載水雷艇、小蒸氣船若ハ端舟内ニ於ケル射撃要訣ヲ會得セシムル爲ニ適當ト認ムル方法ヲ以テ施行スルモノトス

第四十四條 艇砲射撃ノ標的ハ第一種標的ヲ陸上若ハ海上ニ設置シテ用ヨルモノトス

第四十五條 艦砲ニ併用セサル艇砲ニ在リテハ艦砲ニ準シ炮彈射擊ヲ施行スヘシ

第四十六條 艇砲射撃成績調査法ハ艦砲ニ准シ其ノ報告ニハ艦砲射撃報告第一表ヲ適用ス

ス

内筒砲及縮射彈射撃

第四十七條 内筒砲射撃ハ砲火指揮、照準發射ノ訓練及各種射撃ノ準備射撃等ノ爲適宜之ヲ施行スヘシ

縮射彈射撃ハ照準發射訓練ノ爲適宜之ヲ施行スヘシ

内筒砲射撃ニ使用スル標的ノ制式ハ附圖ニ示ス

一一三
海軍

附 則

第四十八條 砲煩射整規則ハ本則發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

0245

別表

各種射擊二於ケル標的射距離速力等

軍
艦

要 素	射擊種類	檢定射擊		教練射擊		十二母砲以上		十二听砲以下		標的ノ動靜		標的ノ大サ	
		戰	砲臺射擊	全	右	高サ	八呎	幅	十呎	高サ	八呎	十二母砲以上	射擊船ノ速力
特種射擊	特種射擊ハ其ノ目的ニ應シ適宜ノ標的ヲ用ヒ又ハ規定以外ノモノヲ用ユルコトヲ得	幅 高サ 九十呎	幅 高サ 二二五	右ニ同 ノヲ縦ニシキモ	高サ 六呎	高サ 六呎	高サ 六呎	幅	十呎	高サ	八呎	十二母砲以上	射擊船ノ速力
		静	静	静	静	静	静	適	宜	一、三〇〇	一、三〇〇	十二母砲以上	射擊船ノ速力
		十五海里	十二海里	十二海里	十二海里	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	十二听砲	射擊船ノ速力
		六、〇〇〇 乃至至	四、〇〇〇 乃至至	二、〇〇〇 乃至至	二、〇〇〇 乃至至	一、五〇〇 乃至至	一、五〇〇 乃至至	一、五〇〇 乃至至	一、五〇〇 乃至至	九〇〇	九〇〇	五七密砲	射擊船ノ速力
						二、〇〇〇 乃至至	二、〇〇〇 乃至至	二、〇〇〇 乃至至	二、〇〇〇 乃至至	八〇〇	八〇〇	五七密砲	射擊船ノ速力

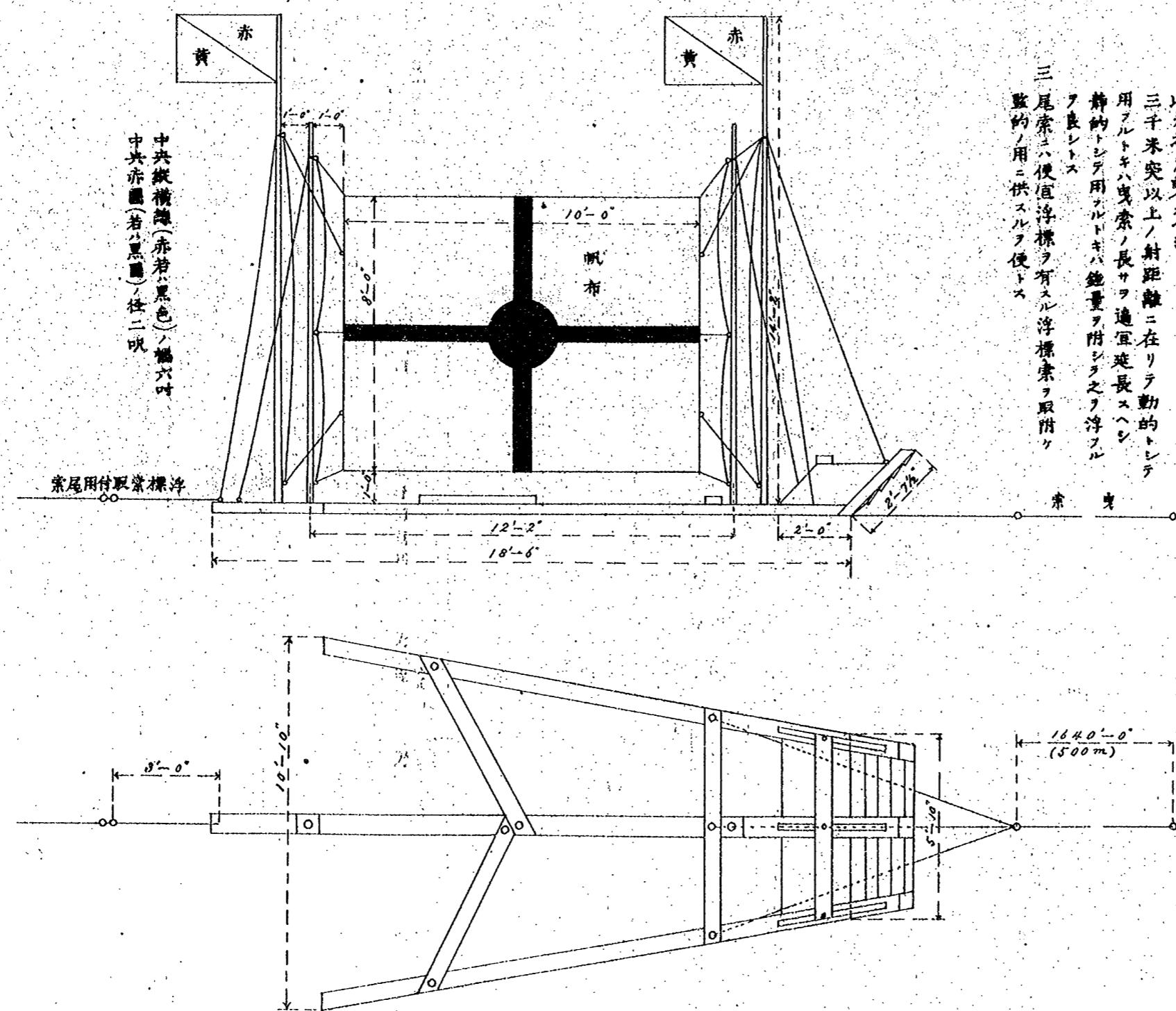
標的ノ動靜射距離等總テ適宜

(備考) 規定ノ速力ニ出シ得サル船體ハ其ノ起航ノ出シ得ル限り可成規定ノ速力ニ過キ速力ヲ以テ行フヘシ

第一種 標的

説明

一 此ノ標的ハ取外スコトヲ得
二 此ノ標的ハ動的若ハ靜的トシテ用フルコトヲ得
動的トシテ用フルトキハ十二浬以内ノ速力ヲ
以テ之ヲ曳クヘシ
三千米突以上ノ射距離ニ在リテ動的トシテ
用フルトキハ曳索ノ長サヲ適宜延長スヘシ
靜的トシテ用フルトキハ銃量ヲ附シラ之ヲ浮フル
フ良シトス
三 尾索六便宣浮標ヲ有スル浮標索ヲ取附ケ
監的ノ用ニ供スルヲ便トス

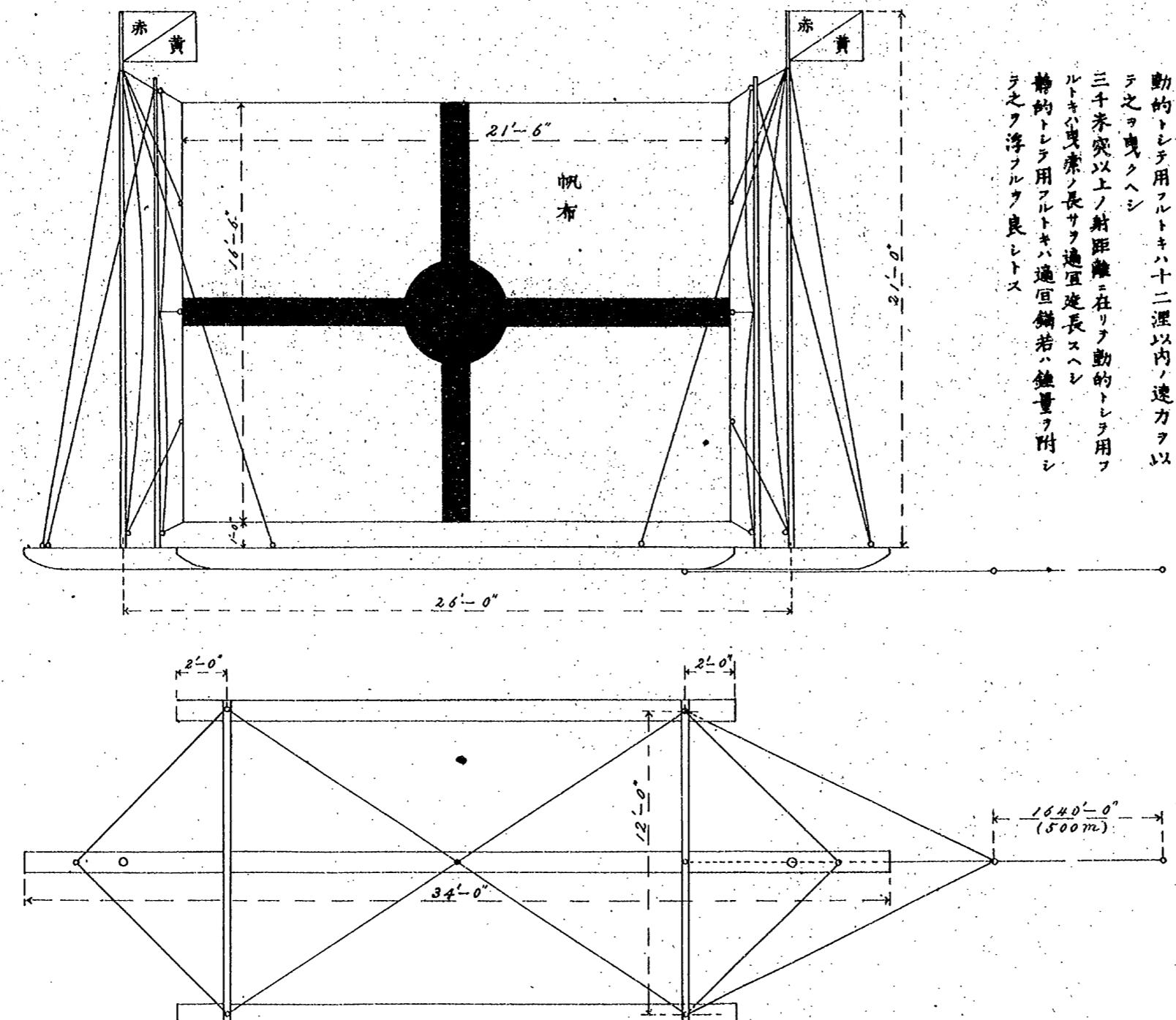


0247

第二種標的

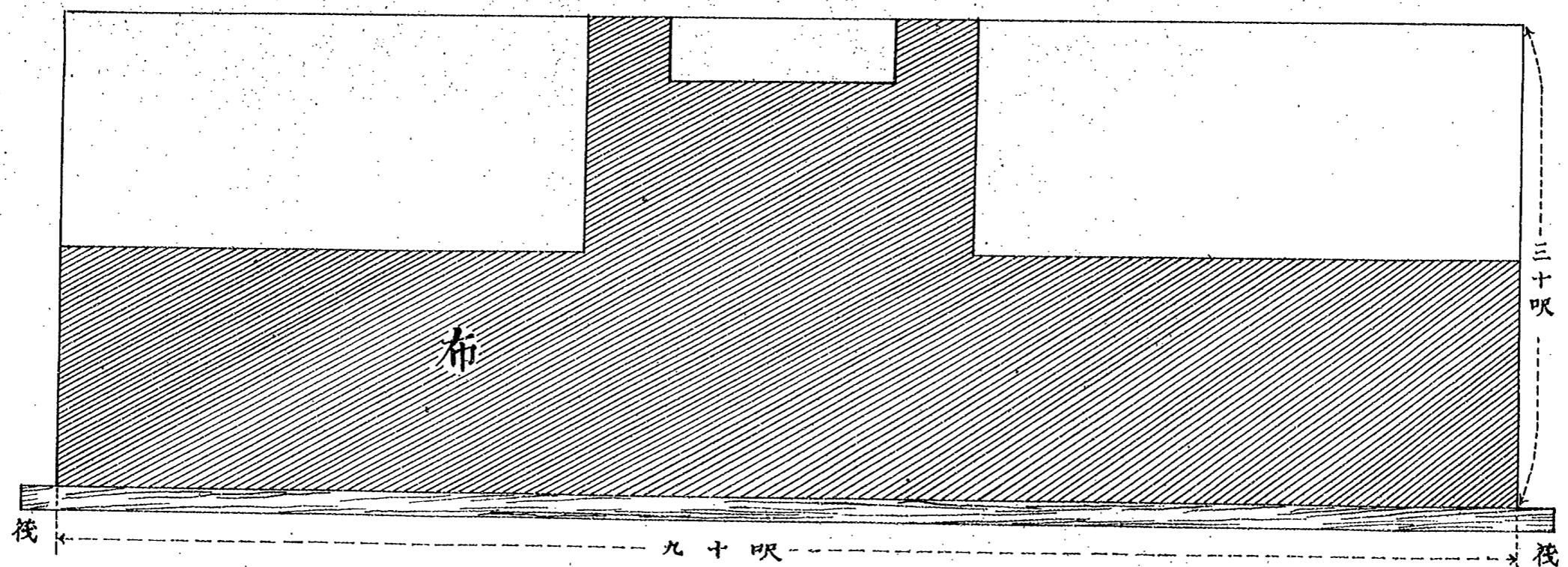
説明

一、此ノ標的ハ取外スコトヲ得又三脚找ラ置ミテ
其ノ外縫内ヨリ取出シ取入レスルコトヲ得
二、此ノ標的ハ動的若ハ静的トシテ用フルコトヲ得
動的トシテ用フルコトキハ十二浬以内ノ速力ヲ以
テ之ヲ曳クヘシ
三千米突以上ノ射距離ニ在リテ動的トシテ用フ
ルトキハ曳索ノ長サヲ適宜延長スヘシ
静的トシテ用フルトキハ通常錨若ハ錨量ヲ附シ
テ之ヲ浮タルク良シトス



0248

第三種標的

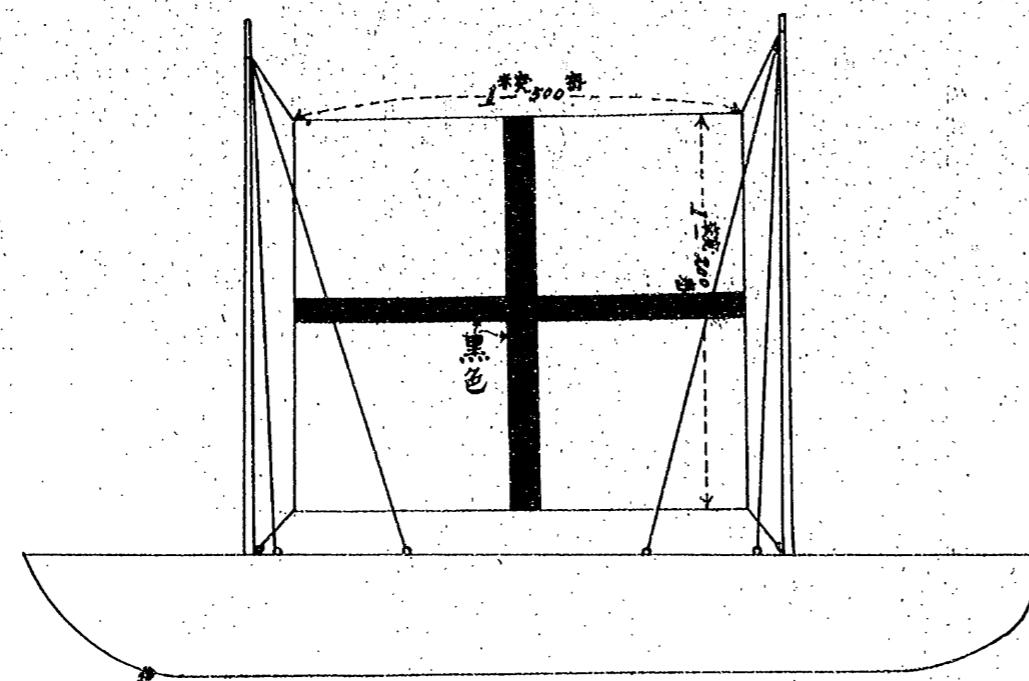


0249

内筒砲標的

説明

一此ノ標的ハ靜的若ハ動的トシテ用シルモノトス
二幕的・綿布ヲ用エラ例トスルモ面積ヲ変色サル
限リ帆布鉄板等適宜・材料ヲ使用スルモ妨ケチ
三様ノ構造及材料ハ適宜幕的ヲ支持スルニ
足シモノナルヲ要ス



0250

艦砲射擊報告 第一表（記事及意見欄不足時）

內八檢定
槍械射擊例

0251

軍艦鹿島教練射擊成績一覽表

軍械局
機立教練射擊砲具等故障摘要

一、本表ハ各種射撃ニ於ケル砲具故障報告ニ使用スルモノトス

艦砲射撃報告

第六表

射撃摘要

明治年月日	見意	要講評	使用セシ通信 装備ノ種類	実施セシ 要射法ノ大	射經過ノ大 要射擊實施	射擊種類
大島、横須賀、支那、朝鮮						

本表ハ各種射擊ノ實施要領ヲ報告スルモノトス

0256

第七表

第一艦隊何支射擊集合成績表

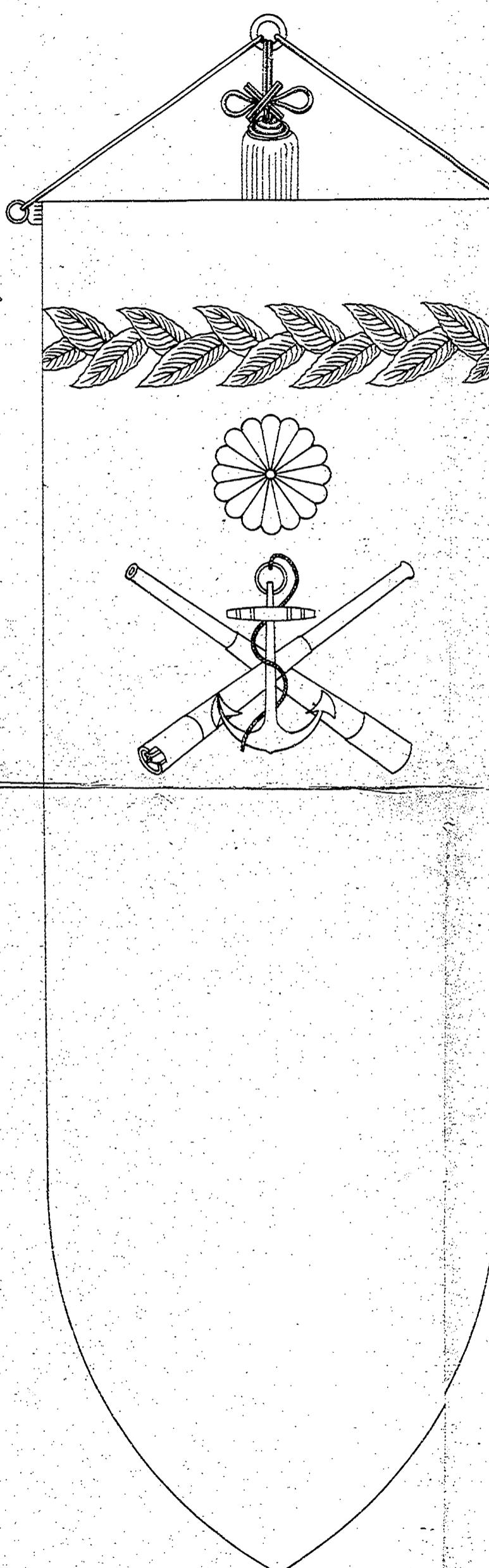
一、本表ハ各種射撃ニ於ケル一所管ノ各集合成績報告ニ使用スルモノトス

艦砲射撃優勝旗

本旗布八寸尺(尺)二尺シ

軍艦ニ授與セラルベキモノ
旗長幅三尺縫最長三尺
驅逐艦水雷艇ニ授與セラルベキモノ
旗長幅五寸縫最長七寸

総	旗	金具
總	地	金色
御紋章	赤地錦	櫻葉ノ帶緑繡
錨	金繡	錨
綱	金繡	金繡
千段巻	赤地錦	砲
柄	銀塗	金繡
金具	金色	



本旗竿ノ寸尺(尺)

軍艦ニ授與セラルベキモノ
金鷲ノ身長三寸

驅逐艦水雷艇ニ授與セラルベキモノ

總長八尺六寸 銘身三尺 銘柄六尺内
櫻花ノ径三寸
(總長七尺一寸 銘身五寸)
(傳ハ軍艦ノ分ニ同シ)

千段巻
一尺五寸
一寸三分



金鷲	金
桜	色
千段巻	黑
柄	金
金具	銀塗

内令第十八號

艦砲射撃褒賞令左ノ通定メラル

明治四十年二月十八日

海軍大臣 齋 藤 實

艦砲射撃褒賞令

第一條 本令ノ目的ハ射手及艦艇ノ射撃技術ヲ検シ其ノ成績優等ナル者ヲ褒賞シ射撃術ノ進歩ヲ獎勵スルニ在リ

第二條 本令ニ依リ褒賞スヘキ艦砲射撃ハ左ノ如ク種別ス

一、各砲単位ヲ以テ施行スル射撃

二、艦艇單位ヲ以テ施行スル射撃

第三條 第二條第一號ノ射撃ニ於テ優等ナル成績ヲ得タル射手ニハ褒狀及賞ヲ授與シ艦砲射手優等章ヲ附與ス

三四續テ褒狀ヲ得タル射手ニハ艦砲射撃優等徽章ヲ授與ス

二十四

海軍

操砲ニ從事シタル砲手ニハ其ノ射手褒狀ヲ受ケタルトキニ限リ賞ヲ授ク

第四條 第二條第二號ノ射撃ニ於テ最優等ナル成績ヲ得タル艦艇ニハ褒狀ヲ授與シ艦砲射撃優勝旗ヲ附與ス

第五條 本令施行ニ關スル事ハ海軍大臣之ヲ定ム

内令第十九號

艦砲懸賞射撃規則廢セラル

明治四十年二月十八日

海軍大臣 齋 藤 實

内令第二十號

艦砲懸賞射撃規則施行細則ヲ廢ス

明治四十年二月十八日

海軍大臣 齋 藤 實

内令第十八號ノ乙

艦砲射撃優賞令ニ依リ戰闘射撃ニ於テ最優等ナル成績ヲ得タル艦艇ニ附與スヘキ艦砲射撃優勝旗ヲ別圖ノ如ク制定セラル

明治四十年二月十八日

海軍大臣 齋 藤 實

正誤

本年内令第十七號艦砲射撃規則中左ノ通正誤ス

所 在

第十三條末項

第十九條初行

第三十八條初行

第四十六條初行

報告第一表中ノ見出シ

同表末尾四行目

正

(彈薬數量表ニ示ス)

遠距離射撃

於ケル

於テハ

艇砲射撃ノ下「」ヲ脱ス

四十一年一月

四十一年三月

射擊依リ

二十四ノ乙

海

軍

同第二表中見出シ空欄中

三十九年一月二十五日

「射手若ハ豫備射手」ヲ脱ス

同表十五挺砲最下欄

四十一年三月二十五日

四十一年三月二十五日

同表記事欄中初行

成績ハ

成績ハ

同表意見欄三行目

乃^ハ揚^ケ

自^ハ擧^ケ

同表中

三十九年

凡テ四十年

報告第五表見出シ

砲種及砲種

凡テ四十年

以上ノ外本則附表砲種別中

十二斤トアルハ十二斤
六吋若ハ六吋トアルハ十五五
五七・四七砲トアルハ凡テ五十七・四十七砲ノ誤

何某ノ下ニ凡テ^ハ脱ス

15cm砲種及砲種

海軍省副官

0261

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第二十一號

明治四十年(三十九年十二月一日より)四年(四十年十一月三十日まで)艦砲及野砲射撃用弾薬年額別表ノ通り定ム

但シ左記區分ニ依リ射撃施行スヘシ

明治四十年二月十八日

海軍大臣　齊藤　實

一、艦隊ニ在ル各艦(練習艦隊ノ各艦及砲艇ハ除ク)及第一種備艦ニシテ全定員ヲ置カレタル戰艦及一、二、三等巡洋艦ハ別表ニ依ル但シ任務ノ變更ニ依リ第二項ヲ適用スヘキ場合ニハ既ニ消耗シタル弾薬數ヲ第二項ノ合計弾薬數ヨリ扣除シ剩餘アルトキノミ第二項ニ依リ射撃ヲ施行ス

二、前項以外ノ各艦ハ別表中教練、砲臺及特種射撃(特種射撃ニ要スル弾薬數ハ炸薬)ノミニ限ル但シ任務ノ變更ニ依リ前項ヲ適用スヘキ場合ニハ既ニ消耗シタル弾薬數ヲ別表ノ合計弾薬數ヨリ扣除シ其ノ殘數ヲ以テ第一項ニ依リ射撃ヲ施行ス

三、驅逐艦及水雷艇ハ各所管ニ就キ其ノ半數ノミ別表ニ依ル但シ本項ノ射撃ヲ施行スヘキ驅逐艦及水雷艇ハ所屬長官之ヲ指定ス

一　十五　　海　　軍

- 四、前項以外ノ驅逐艦及水雷艇ノ射撃弾薬數ハ第二項ニ同シ
- 五、野砲射撃ハ各艦ヲ通シ別表ニ依ル
- 六、陸上部隊ハ第二項ノ弾薬數ニ準シ射撃スルコトヲ得

0262

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

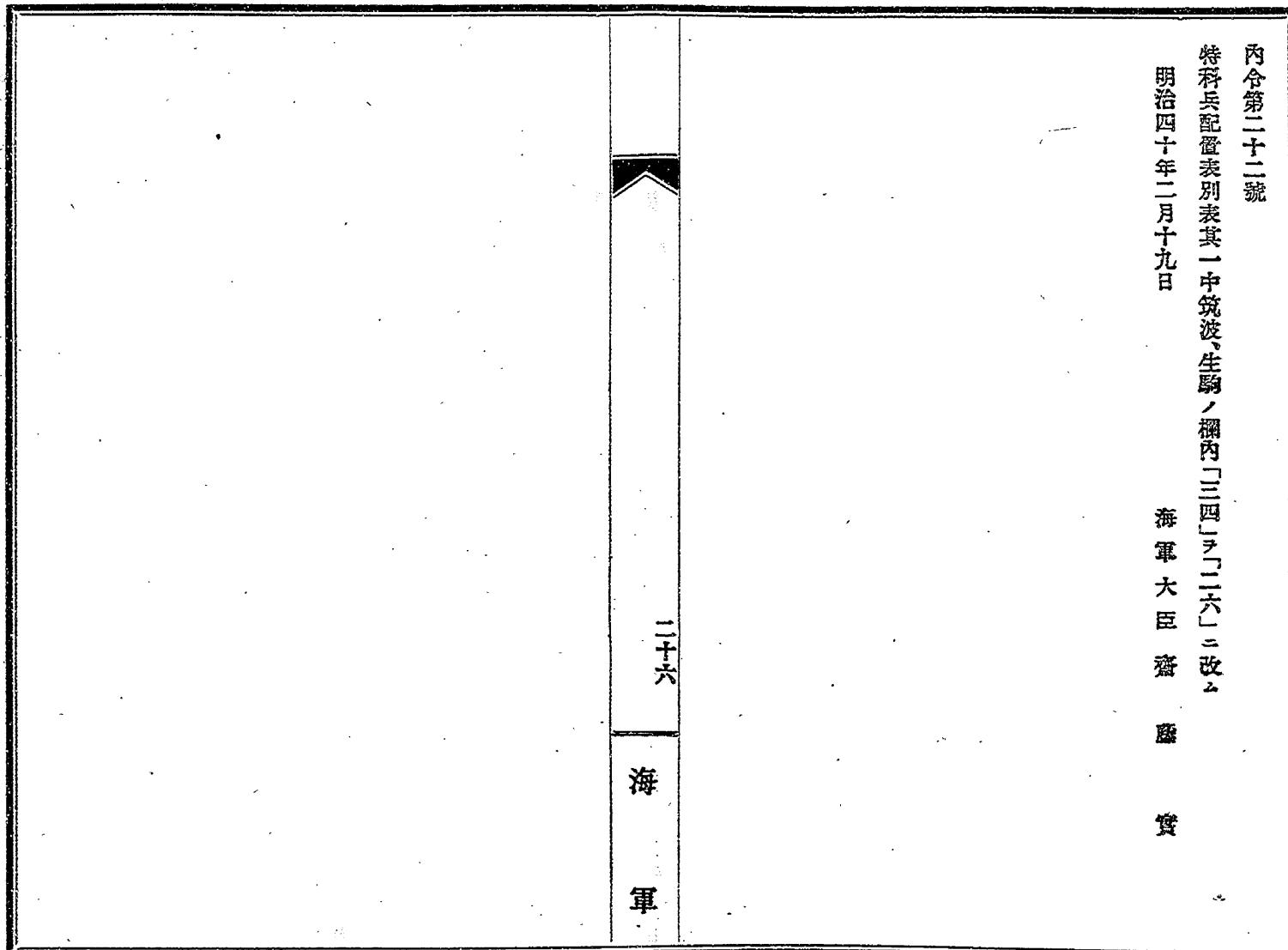
明治四十年艦砲及野砲射擊用彈藥年額表

内令第二十二號

特種兵配置表別表其一中筑波、生駒ノ編成「三」目「二十六」ニ改ム

明治四十年二月十九日

海軍大臣 齋 蘭 實



0264

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第一二十三號

第二艦隊軍艦筑波、同于歲歐米諸國へ派遣セシメラルル間各其ノ定員中へ特ニ左ノ通入員ヲ増加シ尙當該司令長官該艦増加定員中特ニ二等兵曹一人ヲ増加シ一等水兵一人ヲ減少ス

明治四十年二月二十日

海軍大臣臺 麻 實

軍艦 筑波

機關大尉 分隊長

一人

上等機關兵曹

一人

一等機關兵曹

二人

二等機關兵曹

四人

一等機關兵

七人

二等機關兵

十八人

海軍

二十七

四等機關兵

四人

軍艦 千歳

二人

二等機關兵曹

三人

一等機關兵

五人

二等機關兵

0265

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第二十四號

横須賀鎮守府第一豫備艦

軍 艦 松

吳鎮守府第二豫備艦

軍 艦 明

佐世保鎮守府第一豫備艦

軍 艦 須

軍 艦 城

軍 艦 磨

軍 艦 江

右第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

明治四十年一月二十八日

海軍大臣 斎藤 實

内令第二十五號

舞鶴鎮守府第二豫備艦

軍 艦 千 早

右第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

明治四十年一月二十八日

海軍大臣 斎藤 實

二十八

海軍

0266

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第二十六號

第二艦隊

軍艦壹岐

右第二艦隊ヨリ除カル

佐世保鎮守府豫備艦

軍艦壹岐

右第二豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク其ノ定員ハ別表ニ依ル

明治四十年二月二十八日

海軍大臣齋藤實

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

0267

二十九
海軍

(別表)

壹岐特別定員表

長	大	佐	一等兵曹
長	中	佐	二等兵曹
長	少	佐	三等兵曹
長	少佐、大尉	佐	四等兵曹
大尉	機關大尉	等級	五等兵曹
少尉	機關中少佐	看護手	六等兵曹
少尉	機關大尉	筆記	七等兵曹
少尉	大軍醫	厨宰	八等兵曹
少尉	大主計	等級	九等兵曹
少尉	軍醫長	筆記	十等兵曹
少尉	軍主計	等級	十一等兵曹
少尉	機關中少尉	看護手	十二等兵曹
少尉	機關少尉	筆記	十三等兵曹
少尉	軍長	等級	十四等兵曹
少尉	軍長	筆記	十五等兵曹
少尉	軍長	等級	十六等兵曹
少尉	軍長	筆記	十七等兵曹
少尉	軍長	等級	十八等兵曹
少尉	軍長	筆記	十九等兵曹
少尉	軍長	等級	二十等兵曹

備考	將校同相當官	兵曹長同相當官、准士官	兵曹長	兵曹	上等兵曹	上等兵曹	船匠	機關兵曹長	上等機關兵曹	上筆等記	計
一 兵曹長 <small>兵曹等一人ハ掌砲長、一人ハ掌帆長ノ職ニ充テ上等兵曹ハ掌水雷長ノ職ニ充ツ</small>	將校同相當官	兵曹長同相當官、准士官	十三人	下士	卒	百九十二人	一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵	四十五
二 兵曹ハ教員、掌砲長屬、掌水雷長屬、掌帆長屬及各部ノ長等ニ充ツ	兵曹長同相當官	兵曹長	七人	一等木工	二等木工	三等木工	一等機關兵	二等機關兵	三等機關兵	四等機關兵	四十五
三 信號兵曹ハ接針手ノ職ヲ兼ネシム	兵曹長同相當官	兵曹長	一等主廚	二等主廚	三等主廚	四等主廚	一等看護	二等看護	三等看護	四等看護	四十五

0268

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第二十七號

海軍定員令中左ノ通改正セラル

明治四十年二月二十八日

海軍大臣 齋 藤 實

別表海軍港務部定員表中佐世保ノ横創内一等兵曹及一等機關兵曹ノ下「三」ヲ「四」ニ、同三等機關兵曹ノ下「四」ヲ「五」ニ、同一等水兵ノ下「四十八」ヲ「五十」ニ、同二等機關兵ノ下「三十一」ヲ「三十四」ニ、計ノ欄「二十五人」ヲ「二十八人」ニ、「九十二人」ヲ「九十六人」ニ改ム

別表三等海防艦定員表其一中「一等船匠手」ヲ「二等船匠手」ニ改メ「三等船匠手」二二二ヲ削リ金剛及比叡ノ各横創内砲術長大尉ノ下及同水雷分隊長大尉ノ下「一」ヲ「〇」ニ、同分隊長大尉ノ下「二」ヲ「三」ニ、同二等兵曹ノ下「十六」ヲ「八」ニ、同三等信號兵曹及一等信號兵ノ下「三」ヲ「四」ニ、同二等機關兵曹ノ下「七」ヲ「八」ニ、同一等水兵ノ下「三十九」ヲ「二十七」ニ、「同三等水兵」ノ下「八十六」ヲ「四十八」ニ、同四等水兵ノ下「四十五」ヲ「二十五」ニ、同

等機關兵ノ下「十一」ヲ「十二」ニ、同一等主尉ノ下「三」ヲ「一」ニ、計ノ欄「二十人」ヲ「十九人」ニ、「四十一人」ヲ「三十五人」ニ、「一百三十一人」ヲ「百六十二人」ニ改ム

内令第二十八號

特科兵配置表別表其一中金剛、比叡ノ欄内「一九」ヲ「一九」ニ、「一」ヲ「六」ニ改ム

明治四十年二月二十八日

海軍大臣 齋 藤 實

内令第二十九號

明治三十八年内令第二百五十八號ヲ廢ス

明治四十年二月二十八日

海軍大臣 齋 藤 實

内令第二十九號參照

明治三十八年内令第二百五十八號ハ此聲佐世保海軍港務部二人員增加ノ件ナリ

内令第三十號

舞鶴鎮守府第三隊備艦

軍艦金剛
軍艦比叡

海軍大臣齊藤實

右特別定員表別表ノ通改ム
明治四十年二月二十八日

三十一
海
軍

0270

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

(別表)

金剛、比叡特別定員表

金剛

比叡

金剛

比叡

考備		計		上等兵曹		軍醫長		主計長		大軍醫		機關少佐		機分隊長		航分隊長		艦長		副長		大中佐		大佐		
		准士官	將校同相當官	上等兵曹	船匠師	上等兵曹		主計長		大軍醫		機關少佐	機關少佐	機分隊長	機分隊長	航分隊長	航分隊長	艦長	副長	大中佐	大中佐	大佐	大佐			
一	上等兵曹一人ハ掌砲長兼掌水雷長、一人ハ掌帆長ノ職ニ充ツ	五人	五人	二	一	二																ノ内	一	ノ内	一	金剛
二	兵曹ハ教員、掌砲長屬、掌水雷長屬、掌帆長屬及各部ノ長等ニ充ツ	五人	五人	二	一	二																一	一	一	一	比叡
三	信號兵曹ハ接針手ノ職ヲ兼ニシム	卒士	下士	四三	二一	三二	一一	三二	一	三二	一	三二	一	二	二	二	三二	一	二	二	三二	一	等兵曹	等兵曹	金剛	
				等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	比叡		
				機	機	木	信	信	號	水	兵	兵	兵	宰	筆	記	機	關	兵	曹	船	匠	手	曹		
				主	主	主	信	號	兵	江	兵	兵	兵	記	記	記	主	主	主	主	主	主	主	主		
				厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨													
		八十八人	二十人	一	一	二	十五	五	三	二	一	三十五	十五	一	一	一	三	二	一	一	六	四		金剛		
		八十人	二十人	一	一	二	十五	五	三	二	一	三十五	十五	一	一	一	三	二	一	一	六	四		比叡		

0271

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

内令第三十一號

旅順海軍工作部二人員ヲ臨時増員セラントタル處之ヲ察セラル

明治四十年二月二十八日

海軍大臣 藤 雄 實

明治三十九年内令第三百五號參照

0272
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>